

<ニュースリリース>

幼児の心身及び思考の総合的な発達を促す、ベジ・キッズ『考える力』プログラム 「五感でいのちの不思議をまなぶ野菜栽培キット」 新発売

カゴメ株式会社(本社:愛知県名古屋市 代表取締役社長:山口 聡)は、ベジ・キッズ『考える力』プログラム「五感でいのちの不思議を学ぶ野菜栽培キット」を開発いたしました。今シーズンの販売は、2月1日(火)より、主に保育園・幼稚園で利用する備品等のオンラインサイトにおいて開始いたします。

- ※ 数量限定販売となります。
- ※ 本品のお届けは4月~5月頃になります。
- ※ 当社HPにおいて、本品の内容と販売先サイトを紹介しております。

HPは2月1日(火)11時に公開予定 <https://www.kagome.co.jp/company/kangaeru-chikara/>

野菜栽培キット内容

推奨年齢:3歳以上

先生達の負担軽減!!すぐに始められる!

子ども達を巻き込む仕掛け!

育てやすい苗と相性のよい土を宅配でお届け



中玉トマトの苗×2+ミニパプリカの苗×2
+トマトの土×4+誤飲防止ネット

栽培を保育の中に活かすメソッドを伝授!



役立つ情報が
満さい!

ポスターやすごろくなど
子ども向けお楽しみグッズ

1. 開発経緯

野菜栽培は『命への関心』、『感謝する心』を育むだけではなく、「花は何個咲いたかな?」といった『数学的関心』を高めることや、「植物に水をやるとどうなるか?」と予測する『論理的思考』を養うことに繋げることが可能です。そこには、幼児が自発的に考える機会が無数にあると考えております。

そこで、当社が開園した企業主導型保育施設「野菜を好きになる保育園ベジ・キッズ」では、園庭も、野菜栽培が可能な花壇も無いという立地環境にあります。当社の家庭用園芸商品の「トマトの苗」、プランター不要で手軽に栽培を楽しむことができる「そのまま育てるトマトの土」を活用することで、野菜栽培を保育の中に取り入れました。

さらにベジ・キッズ保育園で活用している野菜栽培に関する教材を、保育事業などを展開するポピンズグループ、ライクアカデミー株式会社など延べ 478 園(3 年間)で活用していただいたところ、満足度 80%、継続意向 83%と高い評価をいただくことができました。(*1)

一方で、当社が実施したアンケートやグループインタビューから、保育に野菜栽培を取り入れるにあたっては、栽培場所や栽培方法、また保育につなげるノウハウなどに悩みを抱えている園が多いことが分かりました。(*2)

このような経緯から、野菜栽培を通して幼児の心身及び思考の総合的な発達を促すプログラムを、広く保育の現場に活用いただくために本品を開発いたしました。

*1 「育てよう！トマトの苗カリキュラム」実施園むけアンケート 時期:2021 年 8-10 月、対象:栽培キット実施園

*2 野菜栽培実態調査アンケート 時期:2021 年 1 月、対象:485 園 (1 都 3 県、名古屋市、福岡市の保育園/幼稚園)

2. 本品の特徴

このたび発売する、ベジ・キッズ『考える力』プログラム「五感でいのちの不思議をまなぶ野菜栽培キット」の特徴は、第一にわずかなスペースでも手軽に栽培ができること、第二に野菜栽培の手順や保育への取り入れ方を掲載したガイドブックを同梱しており、安心してご利用いただけること、第三に子どもが野菜栽培に対して継続的に興味関心をもてるような仕掛けをしていることです。

キットには、「野菜の苗(トマト、パプリカ)」、「プランターとして使える土入りの袋」、「かわいい絵や図を使った栽培手順や保育事例等を掲載したガイドブック」、「栽培を楽しみながら続けられるすごろく」、栽培中の果実に被せる「誤飲防止ネット」が入っております。ガイドブックでは、子どもの認知発達の専門家である沢井佳子先生から、野菜栽培をお子様の心身及び思考の総合的な発達につなげる保育のポイントを解説いただき、保育現場で取り入れやすい工夫を行っております。

当社は野菜栽培を保育に取り入れる普及活動を進め、幼児の心身及び思考の発達に貢献していきたいと考えております。

商品名	キット内容	価格(税込)
ベジ・キッズ『考える力』プログラム 五感でいのちの不思議を まなぶ野菜栽培キット	高リコピントマトの苗(2苗) ミニパプリカの苗(2苗) そのまま育てるトマトの土(4袋) 栽培中の果実に被せる「誤飲防止ネット」 栽培&保育のガイドブック ポスターやすごろくなどのお楽しみグッズ	13,200 円

※ 推奨年齢 3 歳以上。

※ 数量限定販売となります。

※ 本品のお届けは 4 月~5 月頃になります。

※ 当社HPにおいて、本品の内容と販売先サイトを紹介しております。

HP は 2 月 1 日(火)11 時に公開予定 <https://www.kagome.co.jp/company/kangaeru-chikara/>

<監修者>

沢井 佳子 SAWAI, Yoshiko

【チャイルド・ラボ所長 (一社)日本こども成育協会理事】



認知発達支援と視聴覚教育メディアの設計および学習コンテンツ開発を専門とする。お茶の水女子大学大学院人文科学研究科修士課程修了、人間文化研究科博士課程単位取得退学、発達心理学専攻。

幼児教育番組『ひらけ！ポンキッキ』(フジテレビ)の心理学スタッフ、お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科研究員、静岡大学情報学部客員教授等を歴任。

2000年に個人事務所のチャイルド・ラボを設立して以来、所長として幼児向けの映像、絵本やデジタルアプリ等の教育コンテンツの開発と監修に携わる。

マルチメディアの幼児教育シリーズ『こどもちゃれんじ』(ベネッセ)の「考える力」プログラム監修。幼児教育番組『しまじろうのわお!』(テレビ東京系列:アジアテレビ賞 2018 受賞、日本賞 2019, 2021 優秀賞受賞)監修。

編著書に『6歳までの子育て大全』(アチーブメント出版)。『3さいの本』全8冊(講談社)ほか、監修した本やデジタルコンテンツは多数。日本子ども学会常任理事。みんなの認知症情報学会理事。人工知能学会「コモンセンスと感情研究会」幹事。BPO(放送倫理・番組向上機構)青少年委員会委員。

■ 沢井先生からのメッセージ ~五感で生命(いのち)を考える~

<野菜栽培だから学べること>

子どもは「五感」でとらえた「モノのイメージ」を記憶の中で様々な「モノやコト」につなげて世界観を広げていきます。五感の中では「嗅覚」「味覚」を含む遊びや経験は限られますが、5つの感覚を全て用いることができる「野菜栽培」は注目すべきコンテンツです。

<考える力を幅広く伸ばす経験>

農業の歴史は人類が思考を集約して築いた文明の歴史でもあります。野菜栽培の過程には、多様な認知の領域(論理、言語、自然、数量、社会性、動作の巧緻性、空間認知、表現)がすべて含まれているのです。野菜を育てる経験は、子どもの「考える力」を持続的に伸ばし、将来の学力や社会性の重要な基礎となるでしょう。

<生命を育み、「いのち」を考える>

野菜の苗の世話をしながら、植物の変化を目撃し、実った野菜を収穫して食べる、という一連の経験は「生命(いのち)」を考える絶好の機会になるでしょう。そして、「生命を観て、自分の命を思う」という経験は、「考えることについて考える(メタ認知)」といった思考の発達を促すはずで、幼児期に「野菜という生命」を栽培する経験が、周りの自然界や社会全体を見渡す視点をもたらし、子どもたちの「考える力」をすこやかに伸ばしていくことを期待してやみません。

<報道機関の皆様向けのお問い合わせ先>

カゴメ株式会社 経営企画室 広報グループ 北川、榎木 TEL:03-5623-8503